特集

掌蹠膿疱症

皮膚科で
新薬の治験を行っている
掌蹠膿疱症に
ついて説明します。

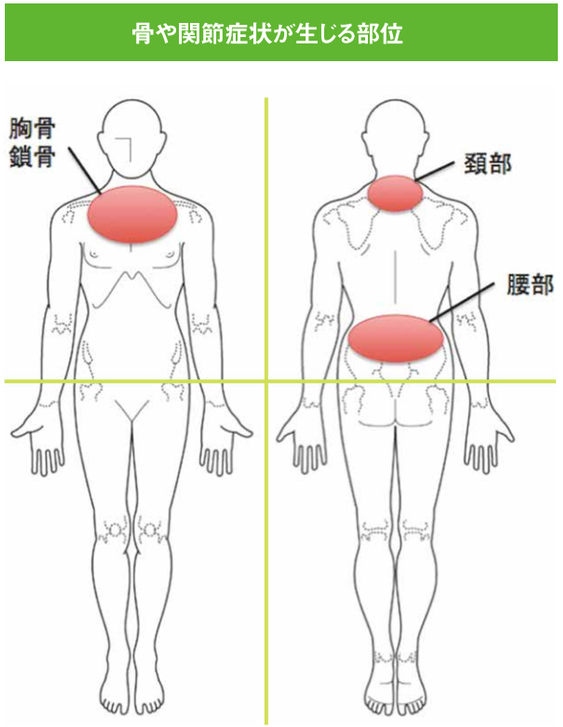
■説明は
徳島大学病院
皮膚科
広瀬 憲志（ひろせ けんじ）総務医長
■問い合わせ先
TEL/088-633-7154（皮膚科医局）

掌蹠膿疱症［しょうせきのうほうしょう］とは?

掌蹠（手のひら・足の裏）に赤い発疹や厚いフケのようなものが見られ、黄白色の膿疱（ウミ）ができる病気です（図1）。この膿疱（ウミ）の中には細菌や真菌（カビ）はいないため、他の部位や他人へうつることはありません。個人差がありますが、かゆみを伴うことがあります。症状が悪化すると、体にも発疹がでてくることもあります。日本では人口の約0.1%（約13万人）の患者さんがいて、男女比は1:2で女性に多いと言われています。20〜50歳代の喫煙者の方に多い傾向があります。また患者さんの1割程度の方には骨や関節の痛み・炎症を合併することがあり、部位としては胸骨、鎖骨付近によく起こります（図2）。原因はよくわかっていません。扁桃炎、中耳炎、副鼻腔炎、齲歯（むし歯）などの慢性的な細菌感染が影響しているもの、歯科金属アレルギーによるものなどがありますが、因果関係がはっきりしない場合、見つからない場合も多くあります。

図1 手足の症状

図2 骨や関節の症状



治療方法は?

まず原因となる感染症や悪化因子がある場合には、それを取り除くようにします（歯科や耳鼻科で原因疾患の治療をしたり、禁煙を行うことにより症状が軽快する場合があります）。

対症療法として、皮膚の炎症やかゆみを抑えるステロイド軟膏、皮膚の代謝を整えるビタミンD3軟膏、厚い皮膚を軟らかくさせるサリチル酸ワセリンなどの外用薬（塗り薬）を用います。抗アレルギー薬、ビタミンA、抗菌薬など内服薬（飲み薬）を併用することもあります。さらに紫外線照射が有効な場合もあります。しかし、いろいろな治療を組み合わせてもなかなか治りづらいことが、この疾患の難点です。

平成28年1月より、皮膚科で掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）の治験（新しい注射薬の有効性を調べるために行う臨床試験）が始まっています。難治なこの病気に効果があることが期待されます。

患者の皆様へ

掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）は皮膚疾患の中でも「てこずる病気」の代表の1つとされ、治療が長期にわたります。また皮膚症状だけでなく、人前で手を差し出すのが気になるなど、精神的に苦痛を感じられる方も少なくありません。症状や生活スタイルに合った治療法をみつけて、一緒に粘り強く治療していきましょう。